

二十歳の記念式典

令和8年1月4日、自然休養村管理センターで「高千穂町二十歳の記念式典」が行われ、鮮やかな振り袖や羽織ばかま、真新しいスーツに身を包んだ97人(対象者122人)が出席しました。

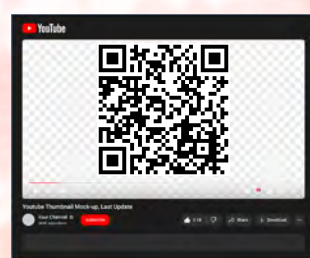
式では、国歌斉唱の後、出席者を代表して、押方亮真さんに「二十歳の証」を授与。続いて、甲斐絢香さんに記念品が贈呈されました。

甲斐町長は「本町は、人口減少や担い手不足などの難しい課題を抱えているが、基幹産業である農林畜産業の強化や県内随一の観光客が訪れる本町の観光産業の活性化、九州中央自動車道の早期全線開通などの交通アクセスの向上に全力で取り組んでいる。今後も高千穂の価値を守り、さらに磨き上げ、町民が自信と誇りを胸に、住んでよかったと未来に希望を持って暮らしていけるまちづくりに取り組むとともに、みなさんがいつまでも誇れる故郷として、また戻りたい故郷として守り創っていくことを約束する。進学や就職で高千穂を離れたみなさんが、夢や希望を求める舞台として高千穂町を選択してもら

えることを期待する」と式辞を述べました。

続いて、本願和茂高千穂町議会議長と佐藤雅洋宮崎県議会議員が祝辞。その後、出席者を代表して税田千公さんが、今日まで支えてくれた家族、友人、地域の方々への感謝の言葉とともに「これまでの二十周年は、『苦悩』と『懸念』という言葉が最も適しているように、何事もうまくいかず、孤独感を抱くことが多く、幾度となく涙してきた。その度に先生や地域の方々の言葉や親身になって話を聞いてくれた友人に支えられ、今ここに立っている。高千穂町の方々や関わってくださる方の温かい思いやりは、これからの人生がまぶしくて理想的だとしても忘れることのできない思い出であり、私を作り上げる人格や人間性の一部になっていく。これから、高千穂と親元を離れ、知らない世界への知見を広げようとひとり暮らしを始める準備している。この先壁にぶつかったときに地元の温かさや両親の偉大さ、また、どれだけ恵まれた環境で大切に育てられたか実感すると思う。まだまだ未熟者ですが、社会人としての自覚を持ち、町やこれまで関わってくださった方々に恩返しをしていきたい」と謝辞を述べました。

二十歳の意見発表として、清原凛さんが「私の二十周年は、この町とともにあった。ここで過ごした毎日の全てが、私を形づくり、うれしい日もつらい日もこの町がそと寄り添ってくれたように感じる。大好きな高千穂町のために力になりたいと、昨年サルタフェスタの実行委員長を務めた。思うようにいかずに悩んだ日もあったが、当日、みんなの笑顔を目にしたときに苦労が報われ、胸が熱くなった。さまざまな経験を重ねる中で、ここまで決してひとりできたのではなく、何気ない日々の暮らしが私の支えになり、当たり前の日常が私をつくってくれていたと改めて実感。これから先も町のためにできることを探し、恩返しできるよう歩みたい。今日まで見守り、支え、育ててくれた家族、友人、恩師、そして地域みなさんに心より感謝します」と発表しました。



神都高千穂チャンネル 検索

式の様子は、YouTube「神都高千穂チャンネル」でご覧いただけます。

